

大山町人口動向分析及び将来人口推計



平成27年 8月

大山町地方創生本部

大山町人口動向分析及び将来人口推計

1. 大山町の人口動向

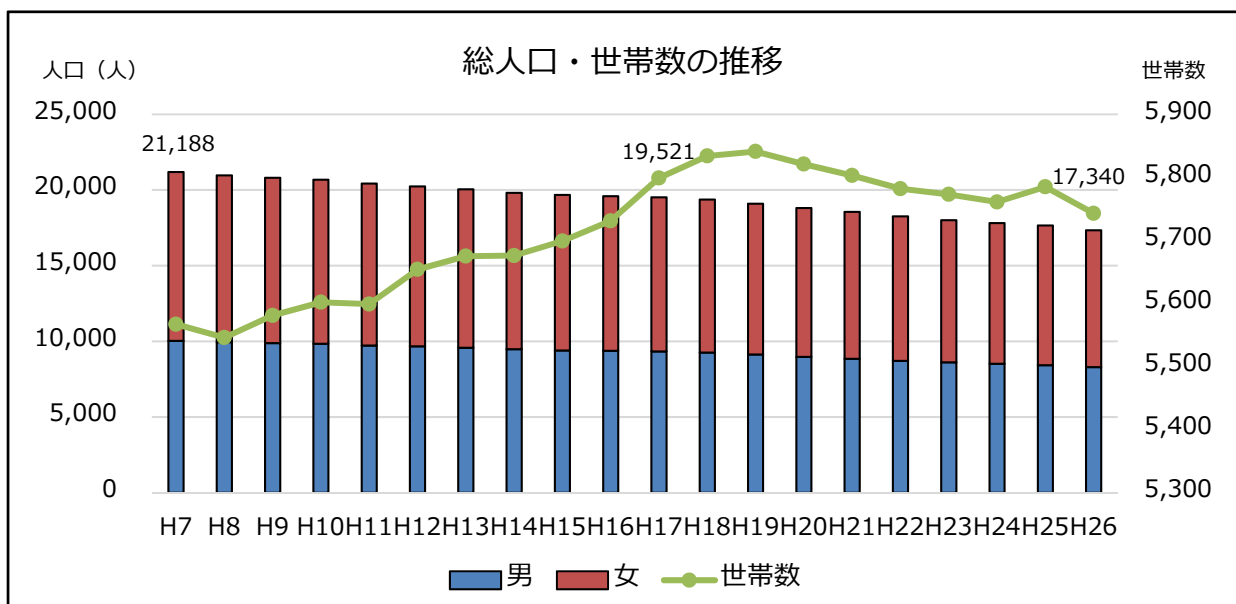
今後講ずべき施策の検討材料とするため、総務省統計局に掲載されている平成7年から現在に至る20年間の人口の推移を把握し、自然増減（出生と死亡による差により生じる増減）の要因と社会増減（転入と転出の差により生じる増減）の要因について、それぞれがどのように影響してきたか等を分析する。

なお、ここで使用している数値は、「人口動態調査（市区町村別）」の住民基本台帳人口・世帯数（各年3月31日現在数値。）を活用し、合併前の平成16年度以前の数値は、旧大山町、旧名和町、旧中山町を合算した数値を使用している。

■ 平成7年から平成26年までの人口・世帯数の推移

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人口	21,188	20,969	20,806	20,682	20,422	20,237	20,050	19,811	19,672	19,591
男	10,030	9,949	9,882	9,843	9,724	9,666	9,580	9,481	9,396	9,379
女	11,158	11,020	10,924	10,839	10,698	10,571	10,470	10,330	10,276	10,212
世帯数	5,567	5,546	5,581	5,602	5,599	5,654	5,675	5,676	5,699	5,731

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人口	19,521	19,368	19,098	18,810	18,557	18,253	18,005	17,818	17,655	17,340
男	9,328	9,259	9,127	8,976	8,846	8,704	8,608	8,521	8,425	8,296
女	10,193	10,109	9,971	9,834	9,711	9,549	9,397	9,297	9,230	9,044
世帯数	5,799	5,834	5,841	5,821	5,803	5,782	5,773	5,761	5,785	5,743



平成7年から平成26年の20年間では、男性、女性とも人口が増加した年はなかった。この20年間で大山町の人口は、男性1,734人、女性2,114人、合計3,848人減少した。

しかし世帯数は、人口減少が進んでいるにもかかわらず、平成8年から平成19年までは増加傾向にあり、大山町では平成8年頃から核家族化が進んだと推測される。

世帯数が増加した主な要因は、旧大山町において、平成15年度に町営住宅大山口新団地24戸の建設。旧名和町において、平成8年度に住宅用地の開発分譲及び町営住宅を建設した「ひかりが丘団地」、平成14年度の住宅用地開発分譲及び町営住宅「御来屋団地」。旧中山町においては、平成11年度から12年度にかけて建設した町営住宅「さざんか台団地」第2団地20戸。平成14年度に、温泉付き分譲宅地「ナスパルタウン」第1期（35区画）の分譲。平成15年度に第2期（43区画）の分譲。平成16年度に第3期（32区画）の分譲などが大きく影響したと考えられる。

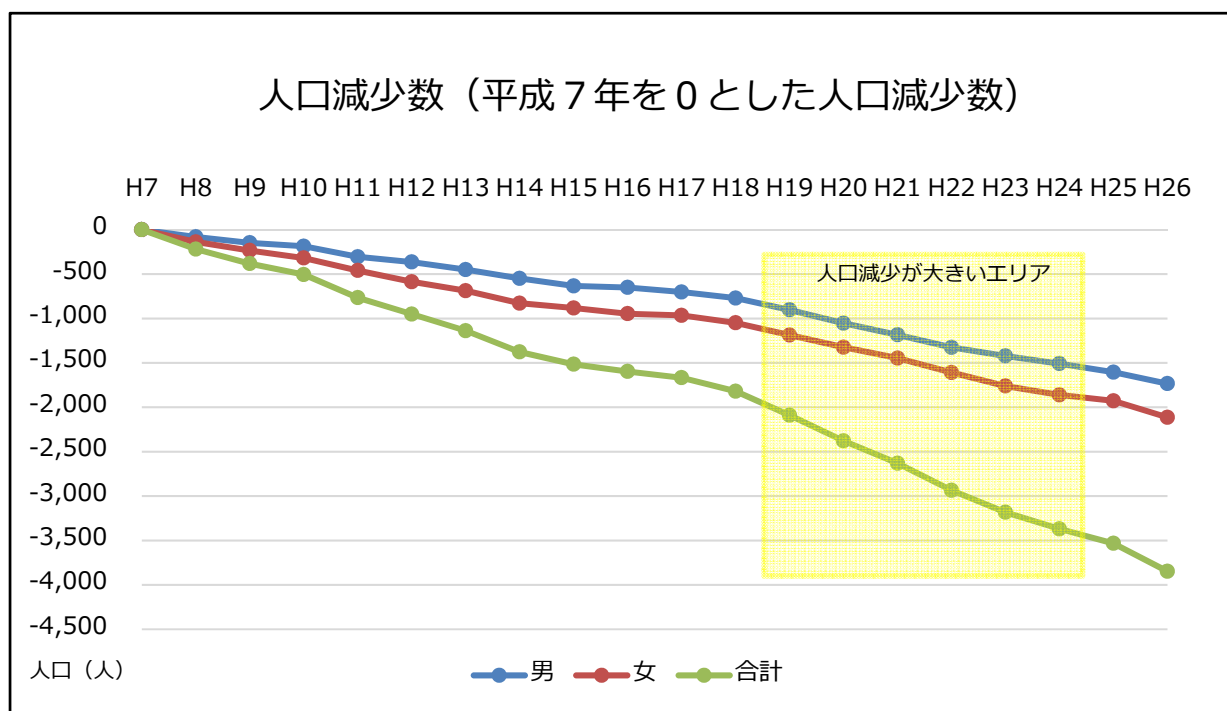
また、平成11年から平成16年にかけて、旧大山町、旧名和町で事業開始をされた社会福祉施設や、介護老人福祉施設なども世帯数を増加させた要因と考えられる。

これらの事業展開により、人口が増加するまでには至らなかったが、平成16年は、81人の減（男性17人減、女性64人減）、平成17年は70人の減（男性51人減、女性19人減）と20年間で人口減が100人以下の年となっており、人口減少に歯止めをかける効果があったものと思われる。

■ 平成7年を0とした人口減少数

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人口	0	-219	-382	-506	-766	-951	-1,138	-1,377	-1,516	-1,597
男	0	-81	-148	-187	-306	-364	-450	-549	-634	-651
女	0	-138	-234	-319	-460	-587	-688	-828	-882	-946

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人口	-1,667	-1,820	-2,090	-2,378	-2,631	-2,935	-3,183	-3,370	-3,533	-3,848
男	-702	-771	-903	-1,054	-1,184	-1,326	-1,422	-1,509	-1,605	-1,734
女	-965	-1,049	-1,187	-1,324	-1,447	-1,609	-1,761	-1,861	-1,928	-2,114



上記グラフは、平成7年（男性10,030人、女性11,158人）を「0」として、年ごとに人口の減少を表したものである。男性は平成19年から平成22年にかけて人口減少が大きく、女性は平成19年から平成24年にかけて人口減少が大きい。

男女の合計で、平成19年に270人、平成20年に288人、平成21年に253人、平成22年に304人、平成23年に248人の人口減となっており、平成19年から平成23年にかけて、人口減少が急速に加速している。

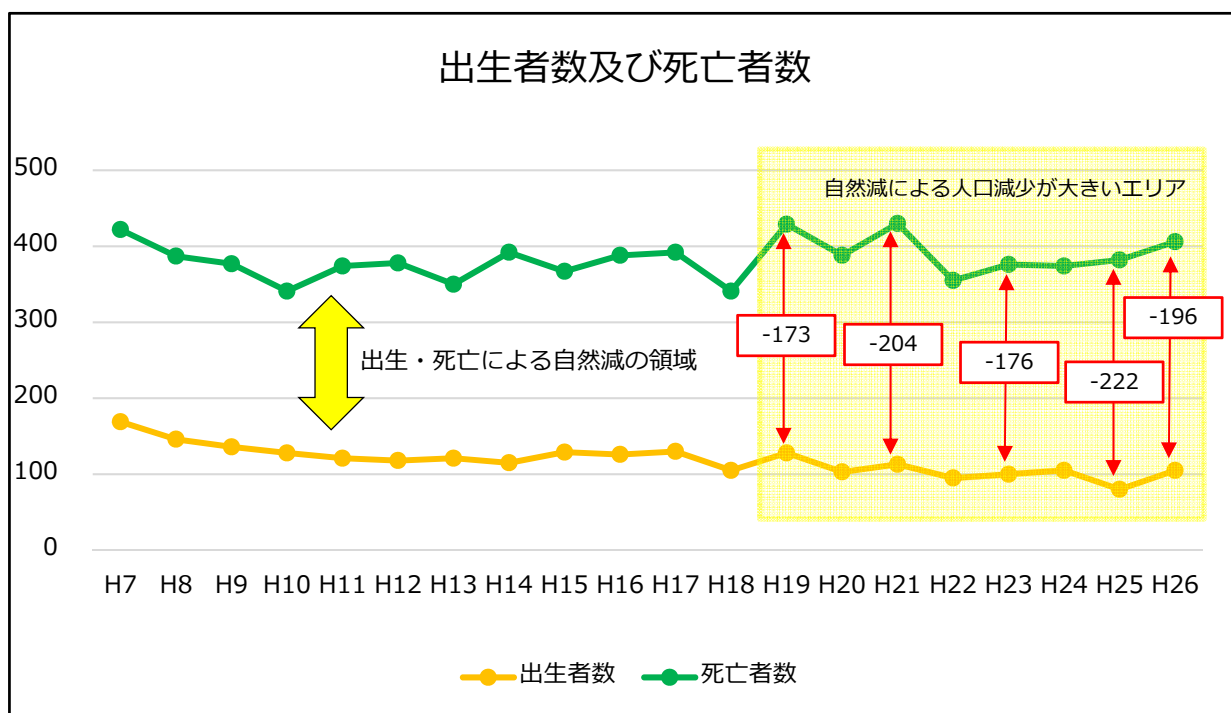
後に自然増減、社会増減についての分析をするが、平成19年以降は自然増減の減少が大きいまま推移しており、平成20・22年は社会増減の減少が大きい年度となっている。

このまま人口減少の歯止めがきかなければ、毎年200人～300人の人口減となることが予測され、本格的な人口減少社会、少子・高齢社会に対応した社会経済のシステムづくりが急務となっている。

■ 出生者数及び死亡者数

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
出生者数	169	146	136	128	121	118	121	115	129	126
死亡者数	253	241	241	213	253	260	229	277	238	262
増減	-84	-95	-105	-85	-132	-142	-108	-162	-109	-136

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
出生者数	130	105	128	103	113	95	100	105	80	105
死亡者数	262	236	301	285	317	260	276	269	302	301
増減	-132	-131	-173	-182	-204	-165	-176	-164	-222	-196



全ての年度で死亡者数が出生者数を大きく上回っており、自然増減では、人口減少の時代が続いている。さらに平成19年以降は、死亡者数の増加と出生者数の減少により人口減少が急速に進み、平成21年に204人、平成25年に222人、平成26年に196人と200人を超える自然減となる年も発生している。

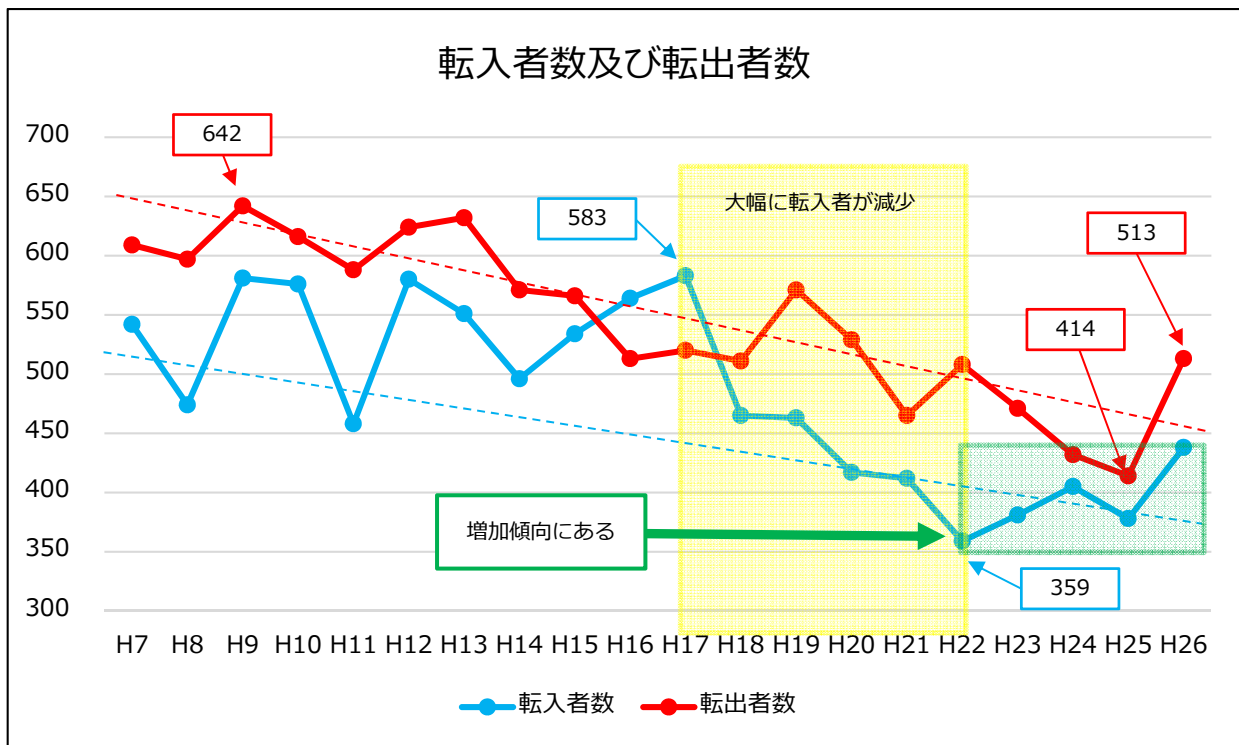
出生者数では、平成22年が95人、平成25年が80人となっており、100人を下回る年が発生している。

出生者数の減少は、母親世代人口の減少や、晩婚化による出生率低下などが主な要因となっており、本町だけでなく、中山間地域をはじめ日本全国での問題となっている。

■ 転入者数及び転出者数

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
転入者数	542	474	581	576	458	580	551	496	534	564
転出者数	609	597	642	616	588	624	632	571	566	513
増減	-67	-123	-61	-40	-130	-44	-81	-75	-32	51

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
転入者数	583	465	463	417	412	359	381	405	378	438
転出者数	520	511	571	529	465	508	471	432	414	513
増減	63	-46	-108	-112	-53	-149	-90	-27	-36	-75



転入者数は、平成17年度583人をピークに平成22年度が359人と5年間で224人の減少となったが、平成22年度からは増加傾向に転じている。しかし、平成17年度以前のように500人前後で推移するわけではなく、転入者数は400人前後となっている。

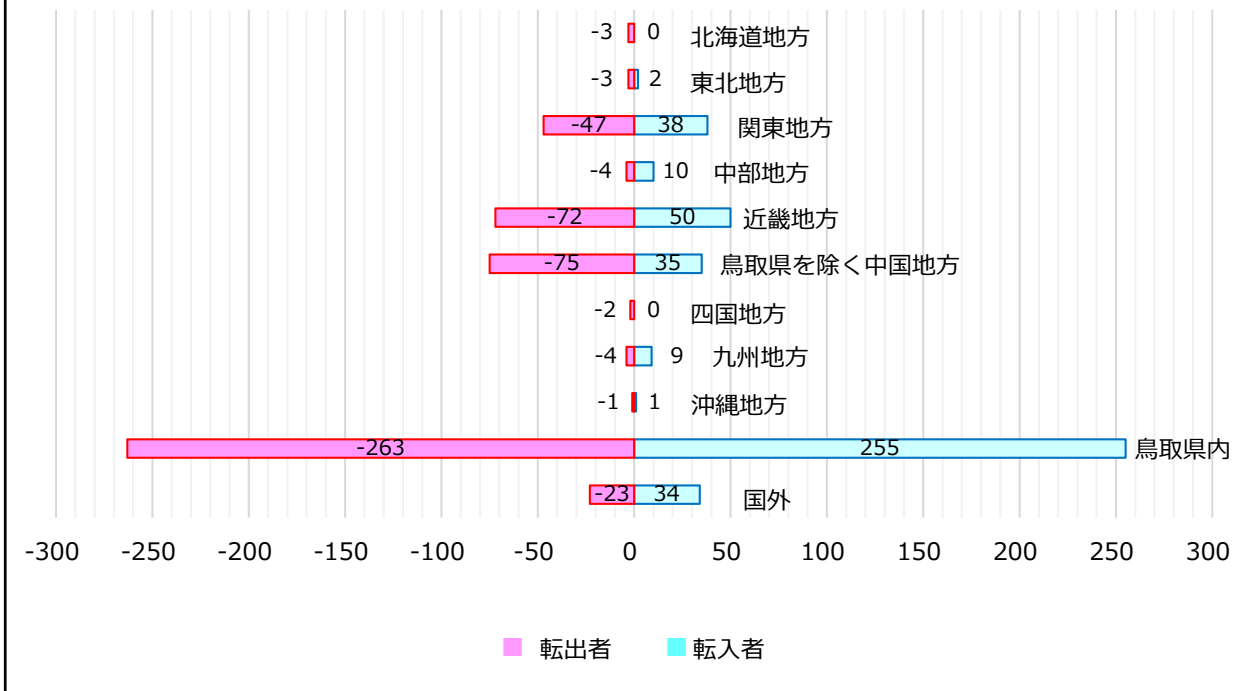
転出者数も相対的にみると減少の傾向にあるが、平成26年には513人の転出者があり、前年に比べて99人増加となった。

■ 平成26年度の転入・転出先状況（住民基本台帳データ）

	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方	沖縄	国外
転入者	0	2	38	10	50	290	0	9	1	34
転出者	3	3	47	4	72	338	2	4	1	23
増減	-3	-1	-9	6	-22	-48	-2	5	0	11

	合計	うち県内移動	うち県外移動	うち国外移動
転入者	434	255	145	34
転出者	497	263	211	23
増減	-63	-8	-66	11

平成26年度における転入・転出先



上記グラフは、住民基本台帳データにより、平成26年度の転入・転出先を表したものである。転入・転出先とも県内移動が群を抜いており、転出では全体の52.9%、転入では58.8%を占めた。県内移動を除くと、転出先では、鳥取県を除く中国地方、近畿地方、関東地方。転入先では、近畿地方、関東地方、鳥取県を除く中国地方という順位となった。

■ 平成26年度の県内移動の状況（住民基本台帳データ）

	鳥取市	米子市	倉吉市	境港市	八頭町	湯梨浜町	琴浦町	北栄町	日吉津村	南部町
転入者	30	154	14	8	1	0	30	1	3	4
転出者	34	162	14	8	0	2	17	10	1	2
増減	-4	-8	0	0	1	-2	13	-9	2	2

	伯耆町	日南町	日野町	江府町	合計
転入者	9	1	0	0	255
転出者	8	2	2	1	263
増減	1	-1	-2	-1	-8

県内移動では、転入・転出とも米子市が最も多く、転出では、県内移動の61.6%、全体の転出先の32.6%。転入では、県内移動の60.4%、全体の転入先の35.5%を占めた。

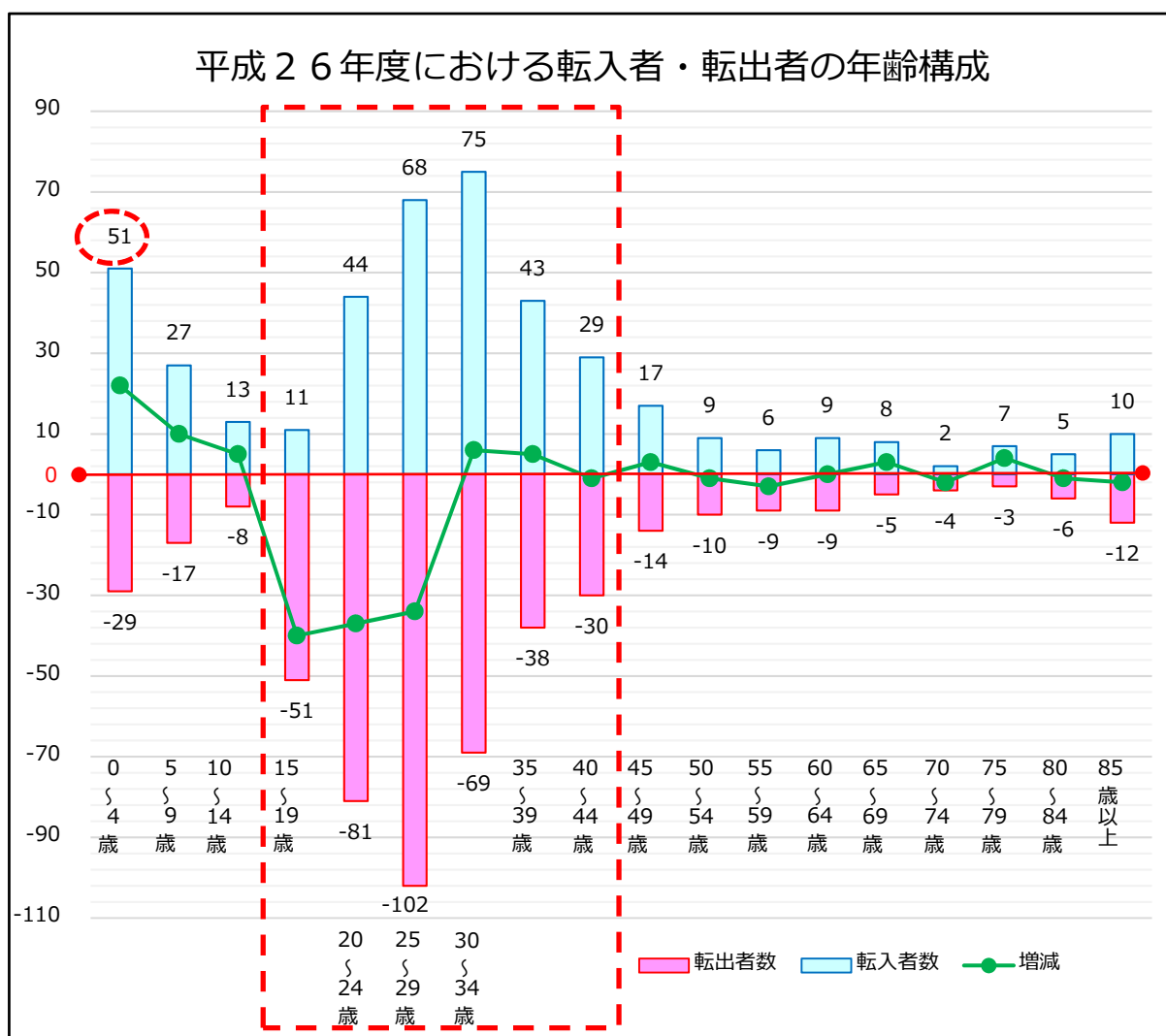
県内移動による人口増減は、転出者263人に対し、転入者255人で、1年間で8人の減であり、人口減少に大きな影響を及ぼしているとは言えない。

しかし、米子市への転出者が年間162人もあり、これを減らす取り組みを行えば社会増減では、増加に転じる可能性があるものと思われる。

■ 転入者・転出者の年齢構成（住民基本台帳データ）

	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
転入者数	51	27	13	11	44	68	75	43	29	17
転出者数	29	17	8	51	81	102	69	38	30	14
増減	22	10	5	-40	-37	-34	6	5	-1	3

	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85以上	合計
転入者数	9	6	9	8	2	7	5	10	434
転出者数	10	9	9	5	4	3	6	12	497
増減	-1	-3	0	3	-2	4	-1	-2	-63



転出者の年齢構成は、「15～19歳」から急激に増加し、「25～29歳」でピークとなり、「40～44歳」まで多いという結果であった。転入でも同じような傾向がみられるが、「30～34歳」がピークとなり、転出に比べ5年遅れるという結果となった。これは、大学・専門学校等で転出された方が大山町へ帰ってこられること、また婚姻関係が大きく影響していると思われる。また、転入では、「0～4歳」が51人もあり、子どもが生まれてから実家等に帰られる傾向があることも推測できる。

■ 転入・転出者状況の詳細（住民基本台帳データ）

		北海道	福島県	新潟県	茨城県	栃木県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
転入者	男	0	0	2	0	0	2	0	16	2
	女	0	0	0	0	0	1	0	17	0
	計	0	0	2	0	0	3	0	33	2
転出者	男	3	2	0	1	1	5	3	9	6
	女	0	0	1	1	0	4	4	9	4
	計	3	2	1	2	1	9	7	18	10
社会増減		-3	-2	1	-2	-1	-6	-7	15	-8

		富山県	石川県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府
転入者	男	0	0	1	3	3	1	0	3	15
	女	0	0	0	3	0	1	1	1	5
	計	0	0	1	6	3	2	1	4	20
転出者	男	0	0	0	0	2	0	1	5	17
	女	1	1	0	0	0	0	2	0	16
	計	1	1	0	0	2	0	3	5	33
社会増減		-1	-1	1	6	1	2	-2	-1	-13

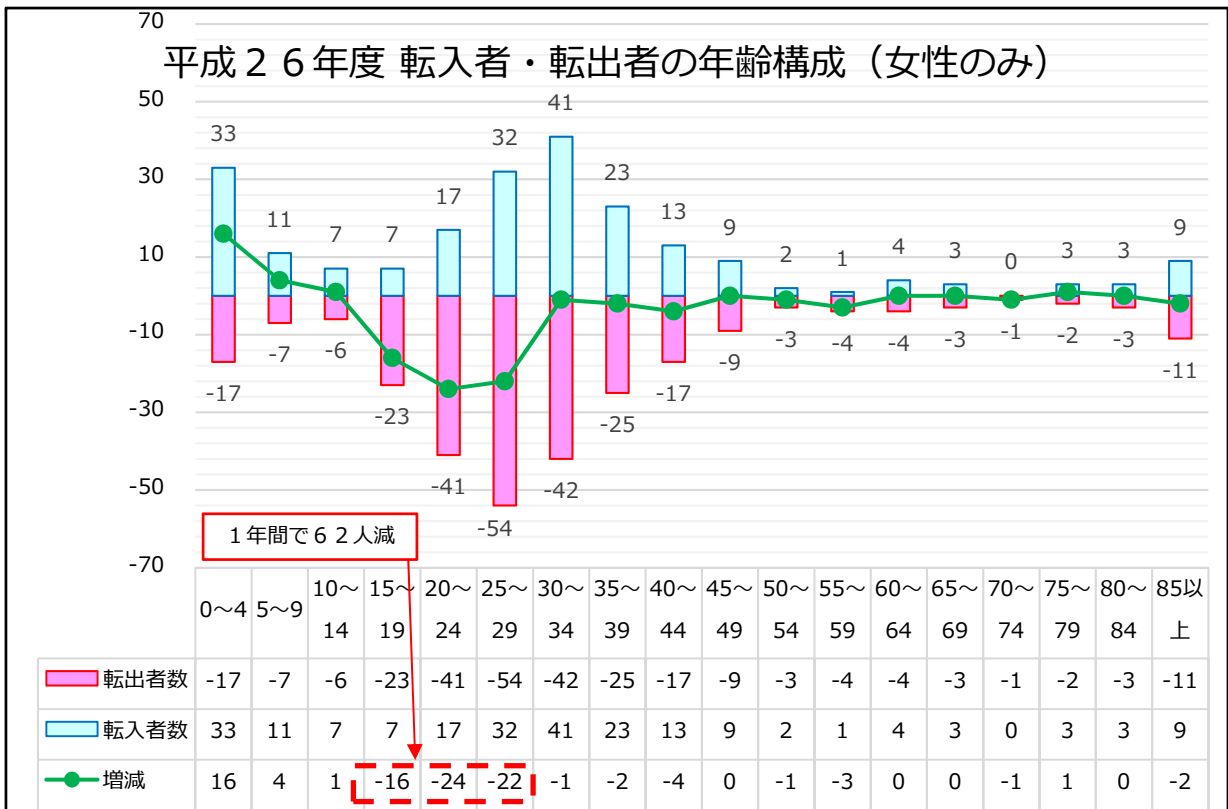
		兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	愛媛県
転入者	男	10	0	0	127	7	6	2	0	0
	女	13	0	0	128	9	2	8	1	0
	計	23	0	0	255	16	8	10	1	0
転出者	男	13	0	1	112	14	16	3	1	0
	女	16	1	0	151	20	12	6	3	1
	計	29	1	1	263	34	28	9	4	1
社会増減		-6	-1	-1	-8	-18	-20	1	-3	-1

		高知県	福岡県	熊本県	大分県	鹿児島県	沖縄県	国外	合計
転入者	男	0	3	1	1	0	0	11	216
	女	0	2	2	0	0	1	23	218
	計	0	5	3	1	0	1	34	434
転出者	男	1	1	1	0	1	0	6	225
	女	0	1	0	0	0	1	17	272
	計	1	2	1	0	1	1	23	497
社会増減		-1	3	2	1	-1	0	11	-63

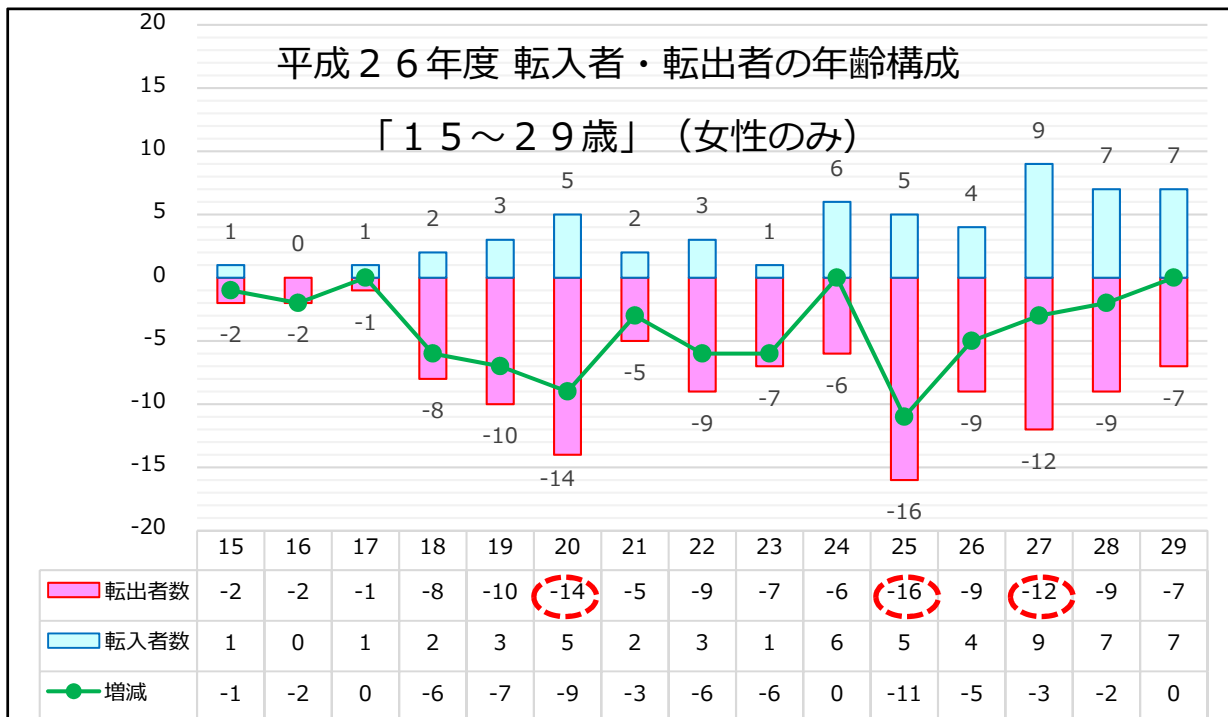
平成26年度の転出では、県内転出を除き、転出先が最も多かった県は、島根県34人、続いて大阪府33人、兵庫県29人。転入では、東京都33人、兵庫県29人、大阪府20人という状況であった。社会増減（転入・転出の差）で人口減となった県は、岡山県20人、島根県18人、大阪府13人。国外を除き、人口増となった県は、東京都15人、静岡県6人、福岡県3人という状況であった。

転出者の合計をみると、男性225人に対し、女性が272人で男性より47人も多いという結果であった。また、転入転出による社会増減でも、男性9人減に対し、女性が54人減という状況であり、女性の転入・転出について詳細な調査を行う。

なお、平成22年度から平成25年度までの間、同様の調査を行ったが、平成26年度と同じような傾向であり、平成26年度住民基本台帳データを基に検証を行った。



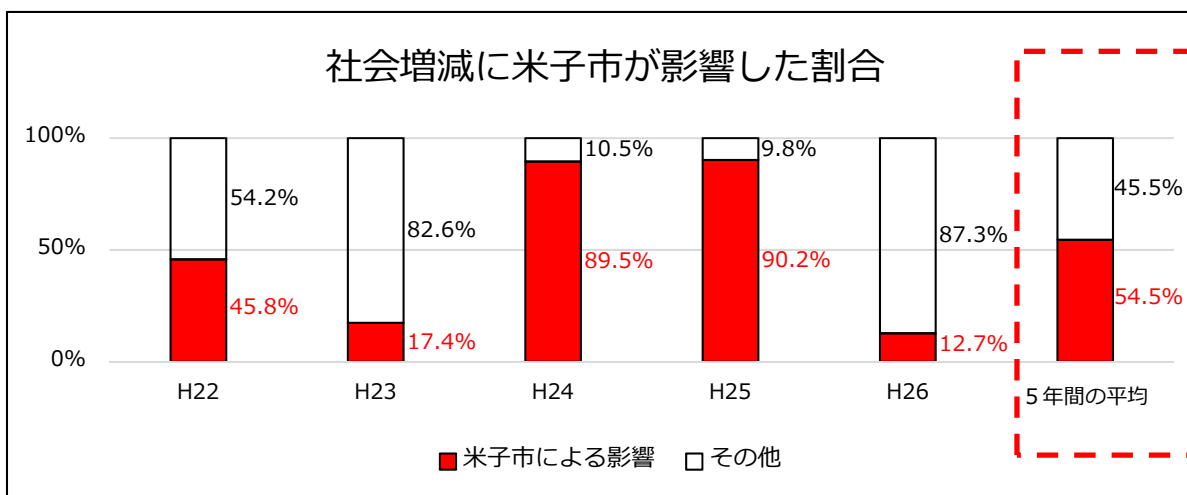
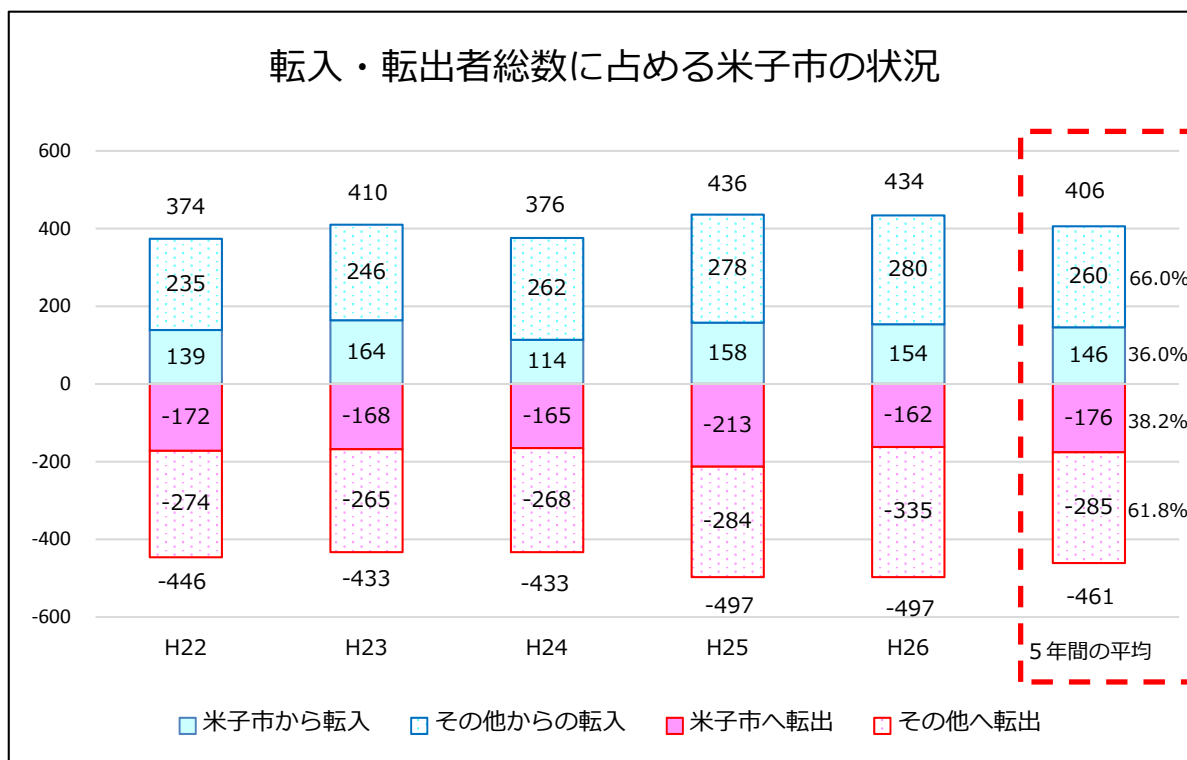
上記グラフは、女性のみでの転入・転出者の年齢構成を表したものである。「15～19歳」が16人減、「20～24歳」が24人減、「25～29歳」が22人減で、「15～29歳」の女性が、1年間で62人も減少しているという結果となった。



上記グラフは、1年間で62人減となった女性の「15～29歳」の間を1歳間隔で表したグラフである。転出が一番多かった年齢は25歳の16人、次いで20歳の14人、27歳の12人であった。進学・就職等による年齢であれば、18歳、20歳、22歳の転出が予測できるが、一番多かった年齢が25歳であったため、結婚、移転等によるものと思われる。

■ 転入・転出者総数に占める米子市の状況（住民基本台帳データ）

		H22	H23	H24	H25	H26	5年間の平均
転入者	総数	374	410	376	436	434	406
	(うち米子市)	139	164	114	158	154	146
転出者	総数	446	433	433	497	497	461
	(うち米子市)	172	168	165	213	162	176
社会増減	総数	-72	-23	-57	-61	-63	-55
	(うち米子市)	-33	-4	-51	-55	-8	-30



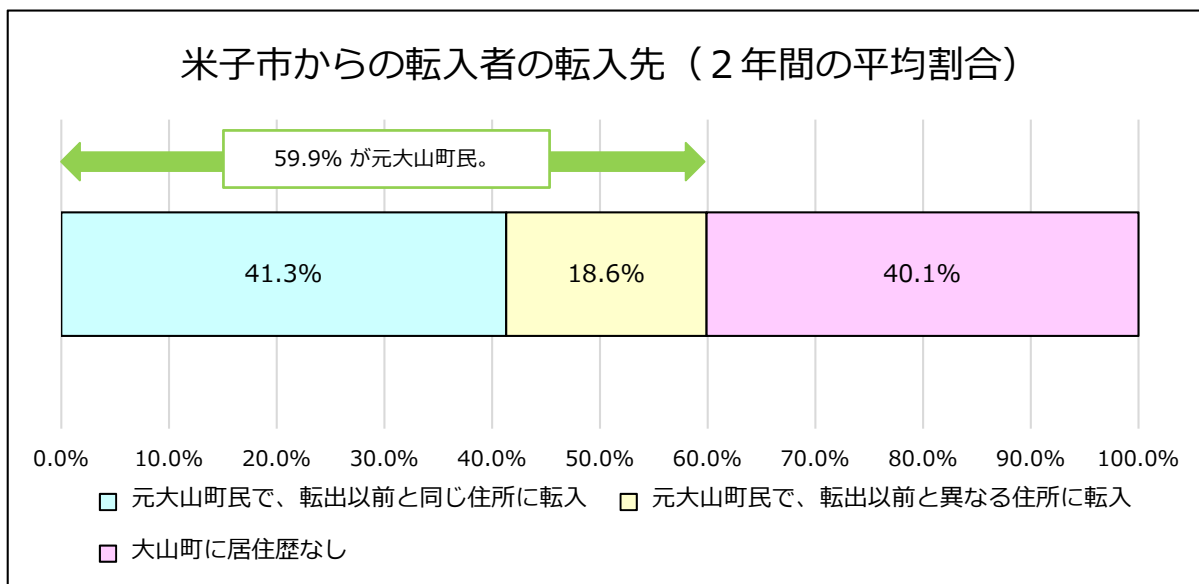
上記グラフは、平成22年度から平成26年度までの住民基本台帳による転入・転出者総数と米子市への転入・転出者の割合を表したグラフである。

平成22年から平成26年までの5年間平均では、転入者総数に占める米子市からの転入者が36.0%、転出者総数に占める米子市への転出者が38.2%という状況である。

また、年度によりバラツキがあるものの、5年間の平均では、米子市が社会増減に影響を与えた割合は54.5%で5割を超えるという結果となった。

■ 米子市からの転入者の転入先（住民基本台帳データ）

	H25	H26	2年間の平均	平均割合
元大山町民で、転出以前と同じ住所に転入	67	62	65	41.3%
元大山町民で、転出以前と異なる住所に転入	35	23	29	18.6%
大山町に居住歴なし	56	69	63	40.1%
（うち施設入所等）	(20)	(11)	(16)	(9.9%)
計	158	154	156	100.0%



上記グラフは、平成25・26年度の住民基本台帳による米子市からの転入者の転入先の2年間の平均割合を表したグラフである。

米子市からの転入者の59.9%が元大山町民で、うち41.3%が転出以前と同じ住所へ転入しているという状況であった。

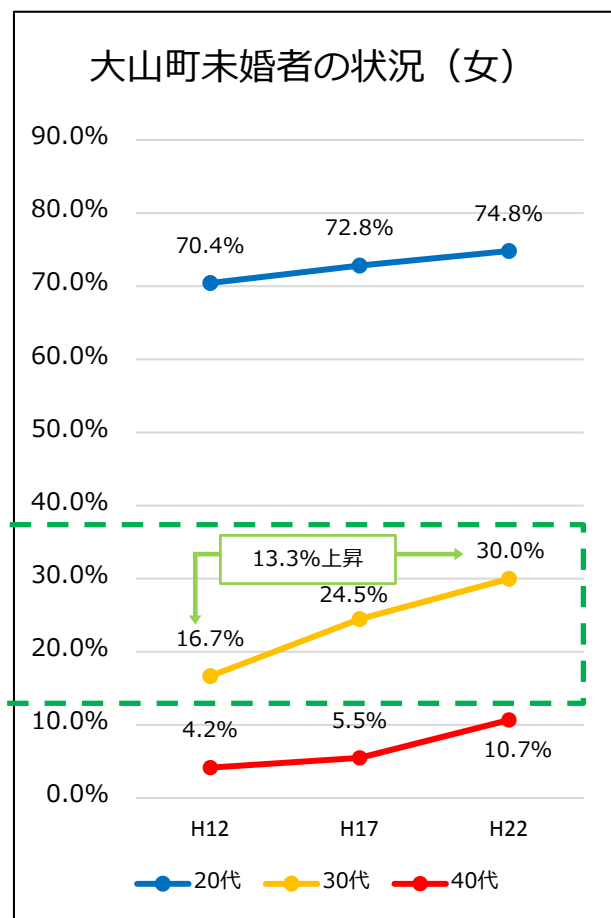
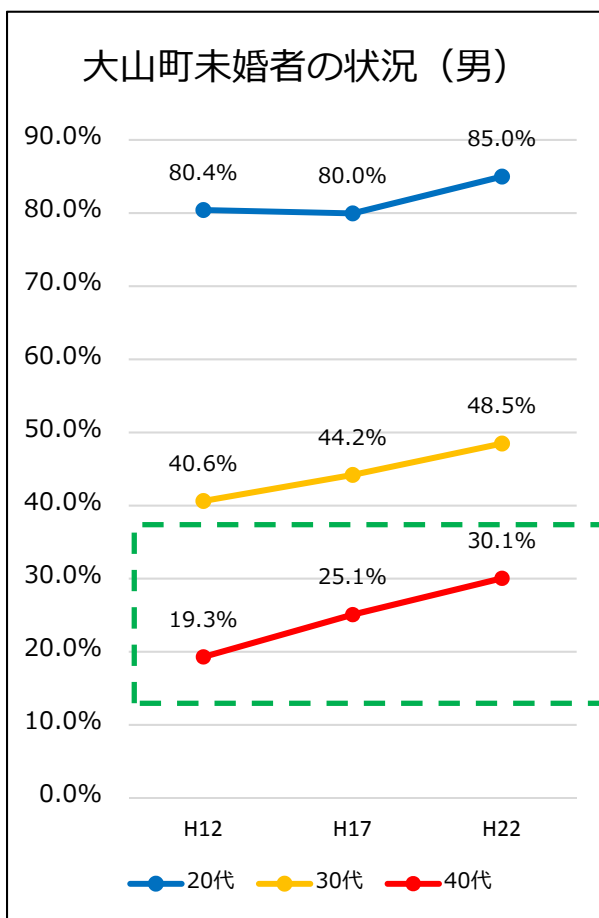
■ 米子市からの転入・転出者（旧小学校区別）

	H25			H26			H27.6.1現在	2か年平均値	
	転入	転出	社会増減	転入	転出	社会増減	住基人口	社会増減	移動率
上中山地区	0	6	-6	1	4	-3	840	-4.5	-0.54%
下中山地区	23	23	0	14	18	-4	1,716	-2.0	-0.12%
逢坂地区	8	22	-14	9	14	-5	1,973	-9.5	-0.48%
庄内地区	31	20	11	20	19	1	2,059	6.0	0.29%
名和地区	21	12	9	11	13	-2	1,229	3.5	0.28%
御来屋地区	9	24	-15	16	15	1	1,405	-7.0	-0.50%
光徳地区	13	21	-8	13	16	-3	1,705	-5.5	-0.32%
高麗地区	5	11	-6	21	13	8	1,504	1.0	0.07%
所子地区	31	46	-15	40	37	3	2,722	-6.0	-0.22%
大山地区	17	28	-11	9	13	-4	1,928	-7.5	-0.39%
計	158	213	-55	154	162	-8	17,081	-31.5	-0.18%

米子市との間の社会増減について、旧小学校区別の状況を見ると年度のバラツキが大きいため断言はできないものの、大きな差違は見られないが、移動率が一番高くなった地区は、上中山地区、次いで御来屋地区という状況であった。

■ 未婚者の状況

		平成12年			平成17年			平成22年		
		総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率
20代	男	888	714	80.4%	853	682	80.0%	626	532	85.0%
	女	957	674	70.4%	868	632	72.8%	659	493	74.8%
	計	1,845	1,388	75.2%	1,721	1,314	76.4%	1,285	1,025	79.8%
30代	男	859	349	40.6%	903	399	44.2%	951	461	48.5%
	女	815	136	16.7%	850	208	24.5%	897	269	30.0%
	計	1,674	485	29.0%	1,753	607	34.6%	1,848	730	39.5%
40代	男	1,347	260	19.3%	1,044	262	25.1%	885	266	30.1%
	女	1,248	52	4.2%	1,018	56	5.5%	824	88	10.7%
	計	2,595	312	12.0%	2,062	318	15.4%	1,709	354	20.7%



上記グラフは平成12、17、22年の国勢調査データによる大山町の20～40代の未婚率（死別、離別を除く）を表したものである。平成17年の20代男性を除き、未婚率が全て上昇しているという結果であった。

男性・女性別では、いずれの年代も女性に比べ、男性の未婚率が高くなっており、特に男性の30・40代の未婚率は、同年代女性の数値を大幅に上回り、40代男性と30代女性の未婚率がほぼ同じ数値となった。

また、平成12年・平成22年を比べると、30代女性が13.3%の上昇で、一番未婚率が上昇していた。

こうした傾向が、出生者数の減少に拍車をかけることとなっており、特段の対策が必要と思われる。

■ 未婚者の状況詳細

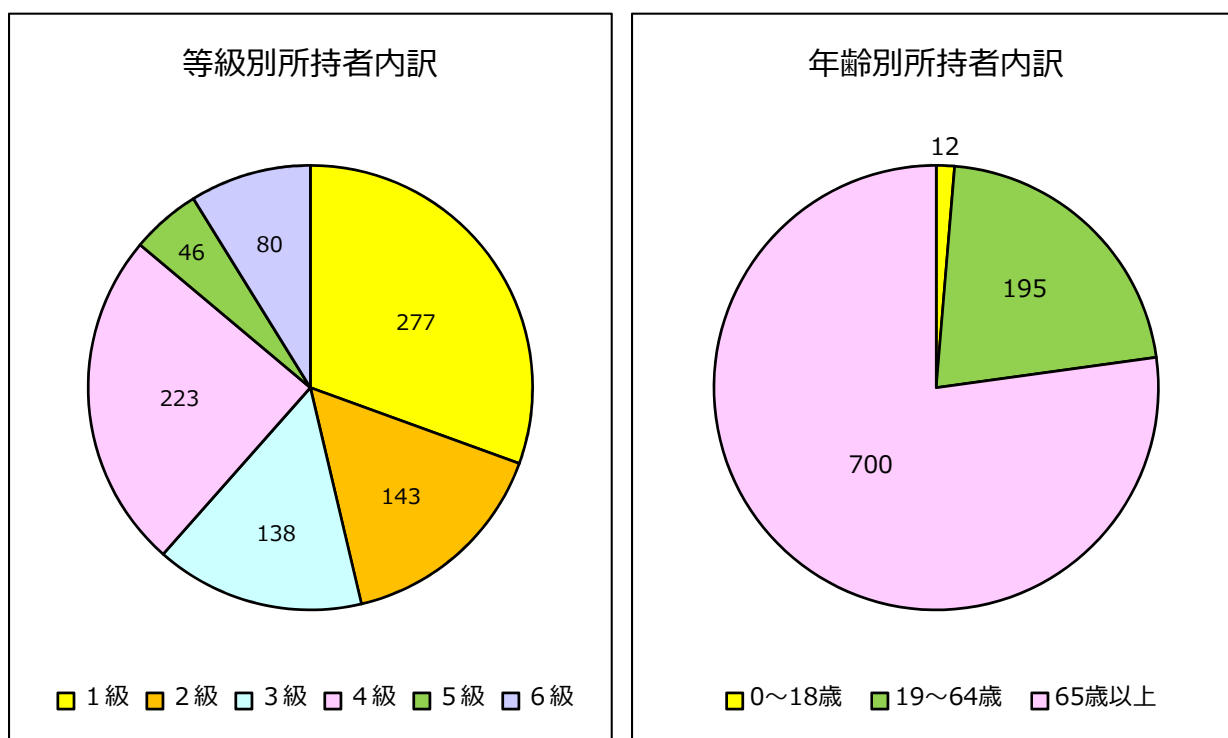
		平成12年			平成17年			平成22年		
		総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率	総数	未婚者	未婚率
15～19歳	男	558	553	99.1%	456	454	99.6%	353	353	100.0%
	女	534	531	99.4%	464	461	99.4%	337	335	99.4%
	計	1,092	1,084	99.3%	920	915	99.5%	690	688	99.7%
20～24歳	男	427	379	88.8%	378	353	93.4%	256	243	94.9%
	女	471	405	86.0%	398	345	86.7%	295	258	87.5%
	計	898	784	87.3%	776	698	89.9%	551	501	90.9%
25～29歳	男	461	335	72.7%	475	329	69.3%	370	289	78.1%
	女	486	269	55.3%	470	287	61.1%	364	235	64.6%
	計	947	604	63.8%	945	616	65.2%	734	524	71.4%
30～34歳	男	407	195	47.9%	490	256	52.2%	455	255	56.0%
	女	358	101	28.2%	479	145	30.3%	417	172	41.2%
	計	765	296	38.7%	969	401	41.4%	872	427	49.0%
35～39歳	男	452	154	34.1%	413	143	34.6%	496	206	41.5%
	女	457	35	7.7%	371	63	17.0%	480	97	20.2%
	計	909	189	20.8%	784	206	26.3%	976	303	31.0%
40～44歳	男	615	153	24.9%	454	130	28.6%	415	133	32.0%
	女	572	27	4.7%	457	31	6.8%	372	57	15.3%
	計	1,187	180	15.2%	911	161	17.7%	787	190	24.1%
45～49歳	男	732	107	14.6%	590	132	22.4%	470	133	28.3%
	女	676	25	3.7%	561	25	4.5%	452	31	6.9%
	計	1,408	132	9.4%	1,151	157	13.6%	922	164	17.8%
50～54歳	男	846	90	10.6%	721	102	14.1%	562	130	23.1%
	女	809	27	3.3%	679	30	4.4%	558	25	4.5%
	計	1,655	117	7.1%	1,400	132	9.4%	1,120	155	13.8%
55～59歳	男	635	21	3.3%	834	80	9.6%	703	94	13.4%
	女	617	16	2.6%	829	32	3.9%	676	33	4.9%
	計	1,252	37	3.0%	1,663	112	6.7%	1,379	127	9.2%
60～64歳	男	592	18	3.0%	642	19	3.0%	829	78	9.4%
	女	685	17	2.5%	615	16	2.6%	827	37	4.5%
	計	1,277	35	2.7%	1,257	35	2.8%	1,656	115	6.9%
65～69歳	男	682	10	1.5%	569	14	2.5%	625	22	3.5%
	女	822	21	2.6%	682	19	2.8%	609	12	2.0%
	計	1,504	31	2.1%	1,251	33	2.6%	1,234	34	2.8%
70～74歳	男	619	6	1.0%	635	8	1.3%	503	13	2.6%
	女	788	13	1.6%	783	22	2.8%	653	19	2.9%
	計	1,407	19	1.4%	1,418	30	2.1%	1,156	32	2.8%
75～79歳	男	419	5	1.2%	530	2	0.4%	520	9	1.7%
	女	781	20	2.6%	741	20	2.7%	724	17	2.3%
	計	1,200	25	2.1%	1,271	22	1.7%	1,244	26	2.1%
80歳以上	男	491	5	1.0%	568	3	0.5%	689	4	0.6%
	女	1,025	10	1.0%	1,398	27	1.9%	1,501	20	1.3%
	計	1,516	15	1.0%	1,966	30	1.5%	2,190	24	1.1%

■ 大山町の身体障害者手帳の交付状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
手帳所持者数	277	143	138	223	46	80	907

	0～18歳	19～64歳	65歳以上	合計
手帳所持者数	12	195	700	907

(大山町障がい者プランより：H26.4.1現在)



上記グラフは、平成26年4月1日現在の身体障害者手帳の等級別所持者数、年齢別所持者数を表したものである。等級別では1級所持者が277人で最も多く全体の30.5%を占め、続いて4級が223人で24.6%となっている。年齢別の身体障害者手帳の交付状況は、高齢になるほど占める割合も高く、65歳以上が700人で全体の77.2%、また65歳以上人口に占める割合は11.5%と非常に高くなっている。

■ 大山町の人口動向のまとめ

転入者数が平成22年度から増加傾向にあること、転入者数と転出者数の人数の差が、減少していく傾向にあると、また米子市への転出者が年間160人程度あり、今後展開する施策次第で、社会増減による人口減少には歯止めをかけることは不可能ではない。

自然増減については、出生者数をいかに増やすかが問題であり、出会いから結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援策や、若者世代、特に女性の転入者を増加させる仕組みづくり（IJUターン施策、移住定住の促進施策等）、女性に好まれるまちづくりを今後どれだけ行えるかが「カギ」となる。

また、身体障害者手帳の交付者は、65歳以上に占める割合が高く、高齢化社会を迎えるなかで障がい者に配慮した施策も実施していく必要がある。

2. 大山町の将来人口推計

この人口推計は、国勢調査から得られた市町村別の男女5歳階級別人口を基準とし、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局から提供を受けた将来推計人口ファイルを活用して推計したものである。ただし、合計特殊出生率については、大山町の平成21年度から平成25年度の数値を平均した「1.33」で試算した。

なお、2010年以前の数値は、国勢調査の数値を使用している。

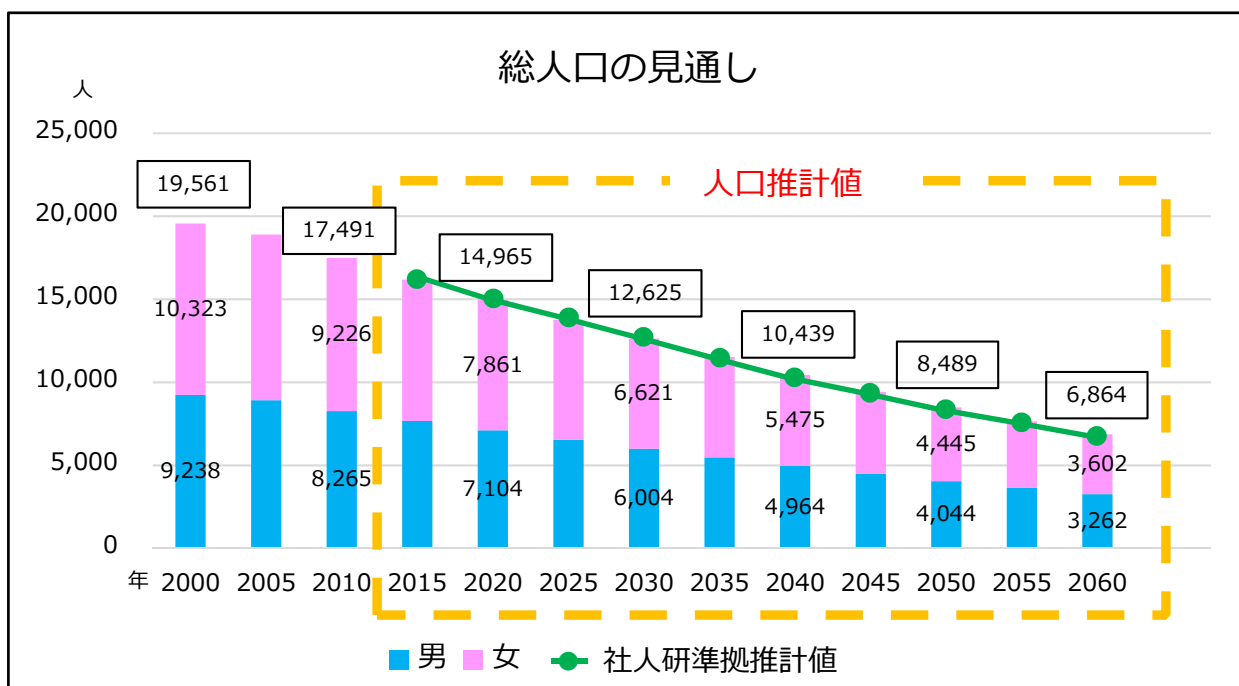
■ 大山町の合計特殊出生率

2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)
1.21	1.34	1.28	1.29	1.52

■ 総人口の見通し

	2000	2005	2010
人口	19,561	18,897	17,491
男	9,238	8,920	8,265
女	10,323	9,977	9,226

人口推計値										
	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
人口	16,174	14,965	13,767	12,625	11,521	10,439	9,420	8,489	7,642	6,864
男	7,669	7,104	6,541	6,004	5,476	4,964	4,484	4,044	3,638	3,262
女	8,505	7,861	7,226	6,621	6,045	5,475	4,936	4,445	4,004	3,602



大山町の将来の人口は、現状のまま人口減少が進めば、2040年代に1万人を下回ると予測される。その後もさらに人口減少は進み、45年後の2060年には、現在より約1万人減少し、7千人を下回ると推計された。

■ 独自推計値と国立社会保障・人口問題研究所推計値

人口推計値										
	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
大山町数値	16,174	14,965	13,767	12,625	11,521	10,439	9,420	8,489	7,642	6,864
社人研数値	16,185	14,978	13,774	12,627	11,518	10,433	9,411	8,479	7,630	6,850
推計の差	-11	-13	-7	-2	3	6	9	10	12	14

将来人口推計では、大山町の合計特殊出生率を活用して推計した数値と、国立社会保障・人口問題研究所に準拠した数値では、最大で14人の誤差しか現れなかったため、以降は独自推計数値を活用する。

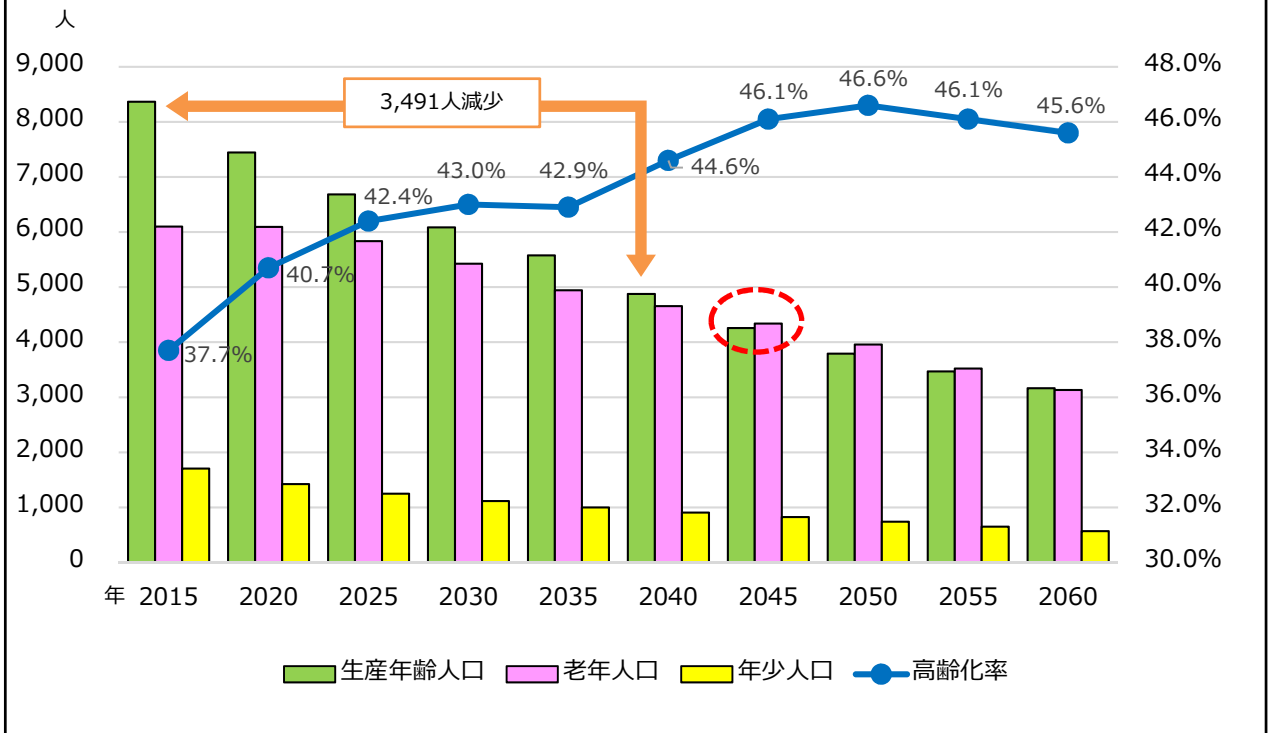
■ 年齢5歳階級別人口の見通し（人）

人口推計値										
男女計	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総計	16,174	14,965	13,767	12,625	11,521	10,439	9,420	8,489	7,642	6,864
0～4歳	450	405	360	320	291	267	240	210	180	160
5～9歳	550	464	418	372	332	303	277	249	218	187
10～14歳	705	556	470	423	377	337	307	281	253	221
15～19歳	663	643	507	428	386	343	307	280	256	231
20～24歳	503	541	526	415	349	315	280	250	228	209
25～29歳	534	498	536	521	411	346	312	278	248	226
30～34歳	690	513	479	516	501	395	333	300	267	239
35～39歳	870	688	513	479	516	501	394	333	300	267
40～44歳	971	864	685	510	477	513	498	393	331	298
45～49歳	792	971	864	686	513	480	516	501	394	333
50～54歳	897	773	949	845	671	502	470	505	491	386
55～59歳	1,096	880	759	932	830	660	495	462	497	482
60～64歳	1,352	1,074	867	752	923	822	653	490	457	492
65～69歳	1,604	1,306	1,041	846	738	905	806	641	480	448
70～74歳	1,141	1,497	1,220	977	796	694	853	758	603	453
75～79歳	1,029	1,022	1,353	1,105	889	727	633	778	692	550
80～84歳	1,041	873	870	1,166	954	774	633	549	677	601
85～89歳	744	756	645	646	882	723	588	480	416	513
90歳以上	542	641	705	686	685	832	825	751	654	568

■ 年齢階層別人口の見通し（人）

人口推計値										
男女計	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総計	16,174	14,965	13,767	12,625	11,521	10,439	9,420	8,489	7,642	6,864
年少人口	1,705	1,425	1,248	1,115	1,000	907	824	740	651	568
生産年齢人口	8,368	7,445	6,685	6,084	5,577	4,877	4,258	3,792	3,469	3,163
老年人口	6,101	6,095	5,834	5,426	4,944	4,655	4,338	3,957	3,522	3,133
高齢化率	37.7%	40.7%	42.4%	43.0%	42.9%	44.6%	46.1%	46.6%	46.1%	45.6%

年齢別階層別人口及び高齢化率の見通し



上記グラフは、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）、年少人口（0-14歳）及び高齢化率の見通しを表したものである。

生産年齢人口は、2040年までに約3,500人（41.7%）減少し、5,000人を下回ると予測される。その一方で、老年人口は、2040年までには約1,500人（23.7%）しか減少していない。年少人口については、約800人の減少だが、率にすると46.8%の減少となり、出生者数を今後いかに増やすかが問題となっている。

2040年後も各年齢別階層で減少は続くが、生産年齢人口の減少が激しく、老年人口の減少が緩やかなため、2045年には生産年齢人口（4,258人）より、老年人口（4,338人）が多くなると予測される。その後も2055年までは老年人口が年齢別階層人口で占める割合が一番高くなっている。

高齢化率は、2035年に老年人口の減少により一時的に若干下がるが、その後は生産年齢人口、年少人口の減少により2050年頃まで上昇を続け、その後下がってくるものと予測される。しかし、高齢化率は2045年以降は45%を超える高い数値となっている。

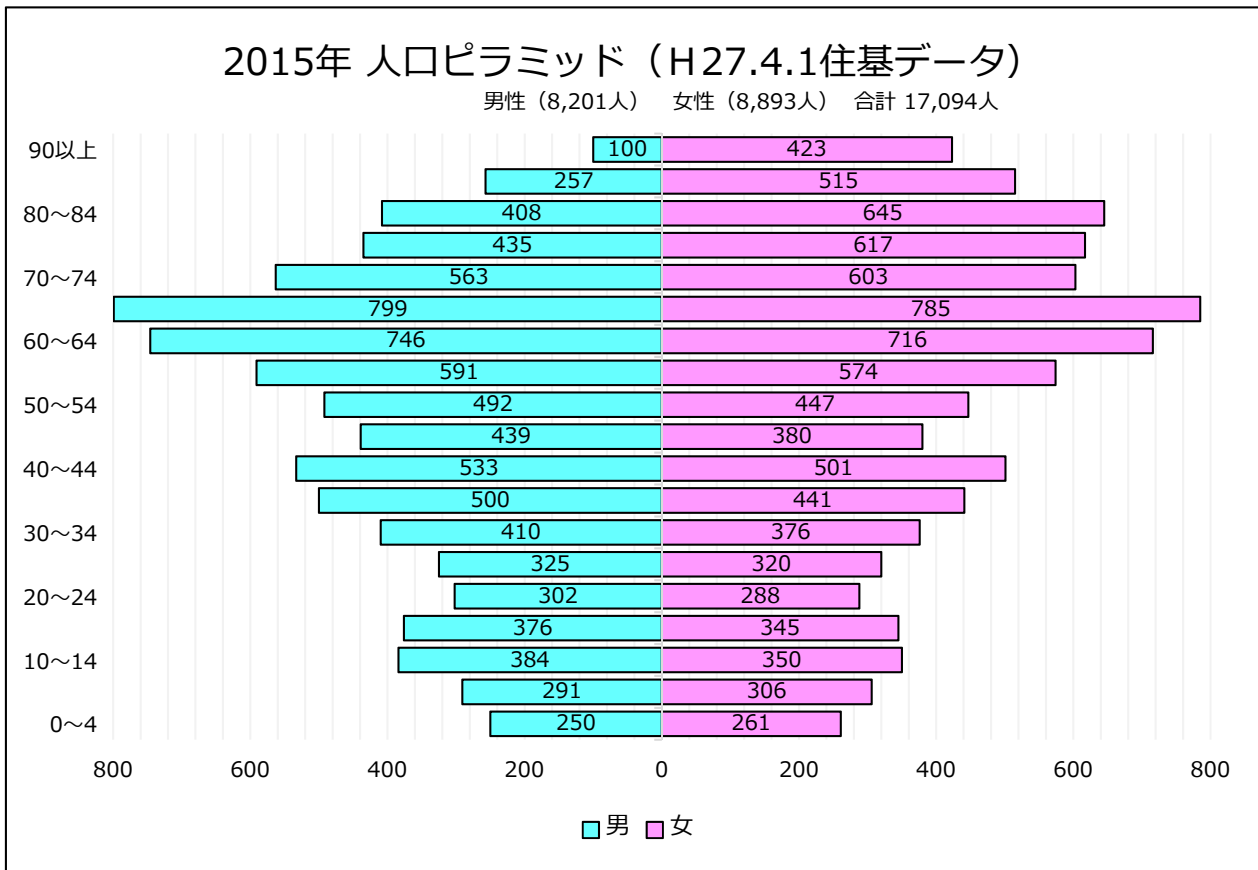
■ 大山町の将来人口推計のまとめ

大山町の将来人口は、何か思い切った施策の展開がなければ人口増加に転じない。さらに、今後30年の間に、高齢化率が45%を超え、超高齢化社会になることが懸念されたため、それに対応するための施策を早めに行うことが重要である。

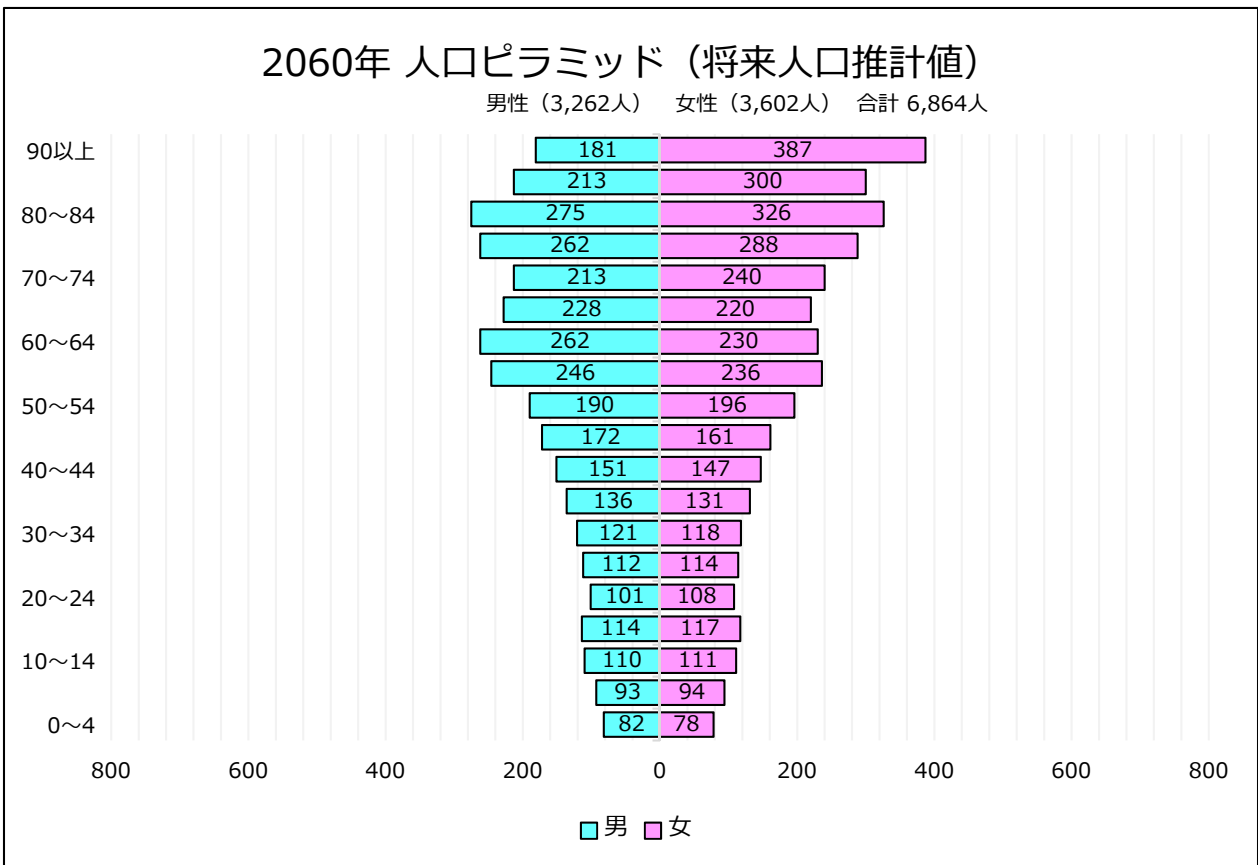
過去20年間の人口動態調査より分析を行った人口の社会増減では、転入者数と転出者数の人数の差が、減少していく傾向にあること、また若者の転入があることから、今後展開する施策次第で、社会増減による人口減少には歯止めをかけることは不可能ではない。

また、自然増減については、出生者数をいかに増やすかが課題であり、そのためにも若者、特に若い女性にとって、「魅力があるまち、しごとがあるまち、子育てをしやすいまち、安心安全なまち」などとなるような事業展開が必要である。

【参考】 2015年・2060年 人口ピラミッド



4 5 年後 (推計値)



3. 大山町の将来人口目標

全国的に人口減少社会を迎える中、大山町独自の人口動向分析、将来人口推計を行った結果、

- 2040年代に大山町の人口が1万人を下回る試算となった。
- 米子市への転出者が平成26年度1年間で162人あった。
- 「15～29歳」の女性が平成26年度1年間で62人減少した。
- 転入者数が平成22年度から増加傾向にあり、社会増減が減少傾向にある。

などという状況が判明した。

これらの結果をもとに、大山町では、将来人口目標を鳥取県が目標としている「合計特殊出生率1.95人」に加え、「転入転出による社会増減0」を目標とする。

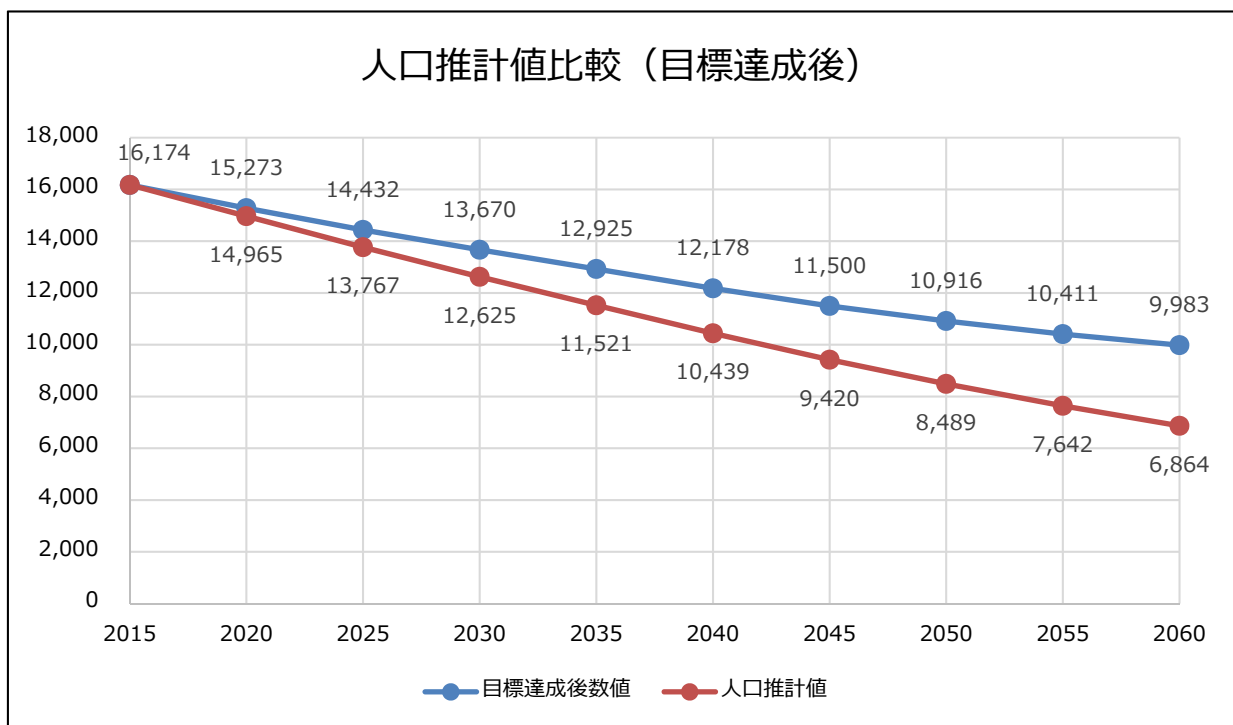
合計特殊出生率は、平成25年度は1.52であり、人口が少ないため年度により変動が大きいが、2030年（平成42年）までに1.95となることを目指す。

転入転出による社会増減では、平成26年度は63名の減であり、うち男性が9人減に対し、女性が54人減という状況であった。

社会増減についても2020年（平成32年）に0となることを目標として、定住促進施策、住宅施策、雇用対策、特に20～30歳代の若い女性の町外流出の抑制施策を実施し、魅力あるまちづくりを進めていく。

- 合計特殊出生率 1.95人。（鳥取県での目標値）
- 転入転出による社会増減「0」。

■ 将来人口推計値

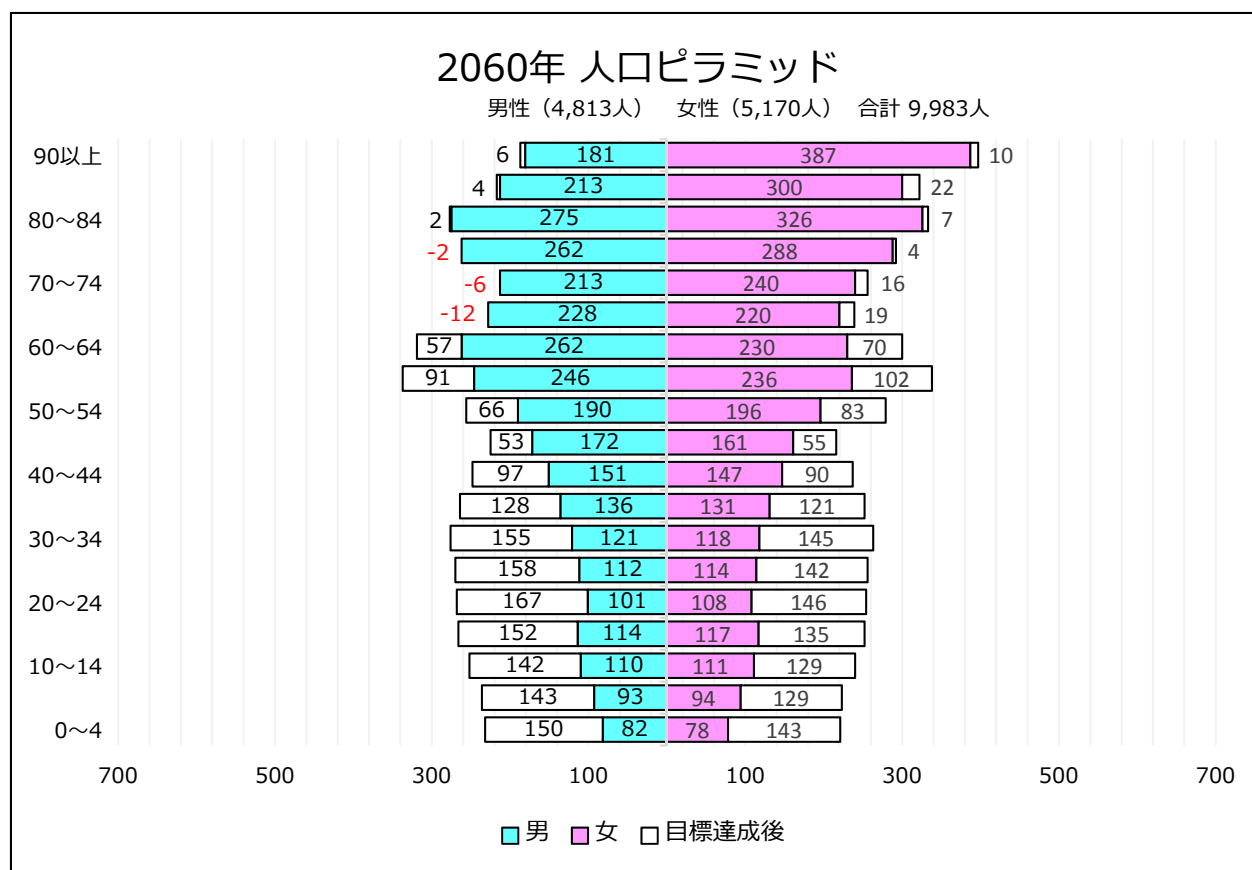
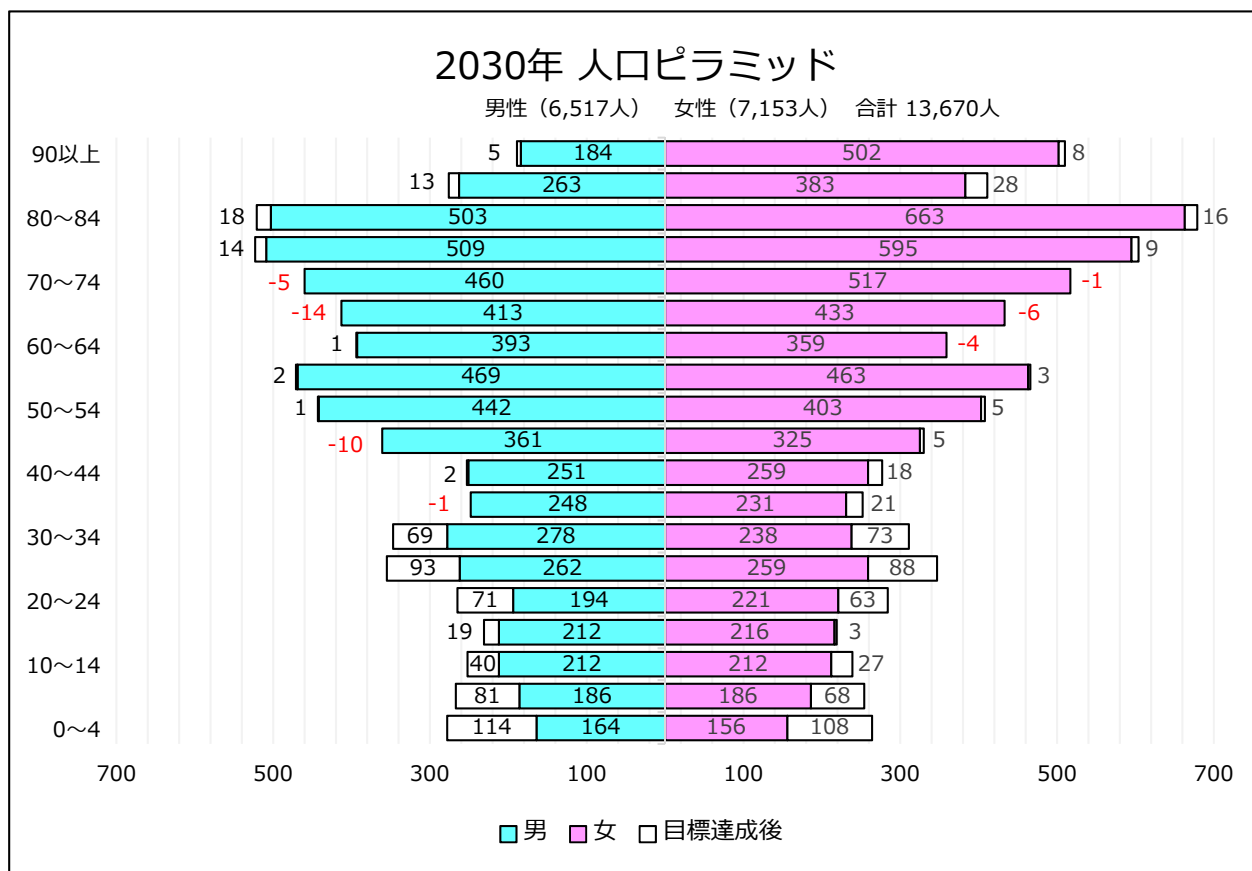


上記グラフは、将来推計人口ファイルを活用して推計した人口推計値と、2030年以降、合計特殊出生率を1.95%、社会増減0として推計した数値（目標達成後数値）を比較したものである。

■ 人口推計値比較ピラミッド

下記グラフは、将来推計人口ファイルを活用して推計した人口推計値と、2020年以降、将来人口目標が達成された場合を比較した2030年、2060年の人口ピラミッドである。

2060年は、2030年に比べ人口が減少しているものの、人口構成は改善されている。



■ 将来人口目標が達成された場合の年齢5歳階級別人口の見通し（人）

人口推計値										
男女計	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総計	16,174	15,273	14,432	13,670	12,925	12,178	11,500	10,916	10,411	9,983
0～4歳	450	492	521	542	529	524	518	492	459	453
5～9歳	550	450	491	521	542	529	523	518	492	459
10～14歳	705	550	450	491	521	542	528	523	518	492
15～19歳	663	705	550	450	491	521	542	528	523	518
20～24歳	503	661	704	549	449	490	520	541	527	522
25～29歳	534	501	659	702	548	448	489	519	540	526
30～34歳	690	533	500	658	700	546	447	488	518	539
35～39歳	870	688	532	499	656	698	545	446	487	516
40～44歳	971	866	685	530	497	654	696	543	444	485
45～49歳	792	964	861	681	526	494	650	692	540	441
50～54歳	897	782	953	851	674	521	489	643	685	535
55～59歳	1,096	881	768	937	838	664	514	482	634	675
60～64歳	1,352	1,067	859	749	915	819	649	503	471	619
65～69歳	1,604	1,295	1,025	826	721	883	789	625	485	455
70～74歳	1,141	1,511	1,223	971	785	685	841	751	595	463
75～79歳	1,029	1,040	1,386	1,127	899	729	635	780	696	552
80～84歳	1,041	881	893	1,200	982	789	640	556	685	610
85～89歳	744	783	674	687	935	773	622	504	435	539
90歳以上	542	623	698	699	717	869	863	782	677	584

■ 将来人口目標が達成された場合の年齢階層別人口の見通し（人）

人口推計値										
男女計	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総計	16,174	15,273	14,432	13,670	12,925	12,178	11,500	10,916	10,411	9,983
年少人口	1,705	1,492	1,462	1,554	1,592	1,595	1,569	1,533	1,469	1,404
生産年齢人口	8,368	7,648	7,071	6,606	6,294	5,855	5,541	5,385	5,369	5,376
老年人口	6,101	6,133	5,899	5,510	5,039	4,728	4,390	3,998	3,573	3,203
高齢化率	37.7%	40.2%	40.9%	40.3%	39.0%	38.8%	38.2%	36.6%	34.3%	32.1%

将来人口目標が達成された場合の高齢化率は、2025年の40.9%をピークに徐々に減少していくという結果となった。

■ 大山町の将来人口目標のまとめ

将来人口目標が達成されたとしても、大山町の人口は増加に転じるものではない。人口減少はやや穏やかになるものの、2060年には、1万人を下回ると推計された。

しかし、高齢化率は、2025年の40.9%をピークに徐々に低下していき、人口構成も年を経過していくことごとく改善されていくという結果となった。